

おわりに

今回のコースガイド改訂は、2010年10月のドラフト版公表からおよそ1年をかけて完成された「JRC蘇生ガイドライン2010」の内容に基づいたものである。心停止の判断、CPRの開始手順をはじめ、新しいガイドラインで変更された部分を中心に改訂作業を行ったことは言うまでもないが、読者の大半がICLSコースをこれから受講する、あるいはICLSコースとはどういうものなのか関心をもっている医療従事者であることを考慮し、コースで学ぶ実技の内容がより明確になるように、全体の構成、記載方法、写真などの一部に変更を加えている。

本書はICLSコース受講のガイドであると同時に、スキルの各項目の内容はそれ自体がBLSから基本的ALSまでの手技、すなわち心肺蘇生の「幹の部分」を紹介するテキストブックでもある、という従来のコンセプトを踏襲している。したがって、コースでの具体的な指導方法（言葉遣いなど）を細かく規定することは極力避けるよう配慮した。蘇生に関する個々の手技や用語については、ガイドラインで明確に示されたものは当然それに合わせているが、それ以外でも実際の現場やコースでの学習に役立つと思われるもの（「2つのABCD p28」など）、あるいはICLSでの必須事項ではないが蘇生を行うものとして知っておきたい知識（蘇生後の酸素濃度 p73など）は、コラムを活用して記載するようにした。

改訂にあたって特に検討したことの1つが「チーム蘇生」についての記載である。救命に影響するチームの要因についてはガイドラインでも述べられており、このコースガイドでも初版以来、チーム蘇生を学ぶことの重要性について「コースの概略」

のなかで触れてきた。最近のコースではこの点がさらに重要視される傾向があり、さまざまな指導方法が取り入れられているようである。そこで今回の改訂版では、コースでの学習効果をより高めることを狙って、「心肺蘇生の流れをつかもう」のなかに新たな項目を設け、蘇生チームに必要なリーダーシップやチームワークの要素について、簡潔かつ具体的な解説を載せることにした。同様の視点から、最後のシナリオも旧版から大きく変更し、チーム蘇生とはどういうものかを少しでもイメージできるよう、実際の医療現場での典型的な動きとなるべくリアリティのある台詞仕立てで表現するようにした。なお、種々の病態への対応（いわばALSの各論）については、コースでの指導に委ねることにして思い切って割愛した。

改訂版の作成は、ICLS コース企画運営委員会での決定を受け、コースガイド改訂ワーキングメンバーが分担して作業を行った。多忙ななか、労苦を惜しまず協力してくださったワーキングメンバーおよび委員諸氏、羊土社の皆様、その他関係各位に心から感謝の意を表したい。

2012年1月

日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会
ICLS コースガイドブック改訂ワーキング代表
(兵庫県立西宮病院救命救急センター)

杉野達也